

第48回 日本死の臨床研究会 年次大会
市民参加企画

The World of
Kenji Miyazawa

宮沢賢治の世界
朗読と音楽



「アメユジュを求めて」型染絵 小田中 耕一 作

2025年

11月2日(日) 11:30~12:30

盛岡市民文化ホール 大ホール

入場
無料

事前参加登録不要

朗読

大塚 富夫

IBC岩手放送アナウンサー



演奏

三浦 祥子

チェロ奏者



後援

岩手県、盛岡市

一般社団法人岩手県医師会、一般社団法人盛岡市医師会、公益社団法人岩手県看護協会、一般社団法人岩手県理学療法士会、一般社団法人岩手県作業療法士会、一般社団法人岩手県言語聴覚士会、岩手県医療ソーシャルワーカー協会、一般社団法人岩手県訪問看護ステーション協議会、岩手県がん診療連携協議会

第48回日本死の臨床研究会年次大会 運営事務局

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-5-5

TEL.019-635-6011 FAX.019-635-6033 E-MAIL jard48-office@yamada-planning.co.jp

演目

1. 「永訣の朝」
2. 「無声慟哭」
3. 「虔十公園林」
4. 「眼にて云ふ」
5. 「雨ニモマケズ」
6. 「宮沢賢治が教え子に宛てた最後の手紙（抜粋）」

演者紹介



朗読

大塚 富夫

IBC岩手放送アナウンサー

《略歴》

1949年(S24)東京都生まれ
1973年東洋大学経営学部卒業・IBC報道部にアナウンサーとして入社
1974年からラジオ番組「IBCトップ40(フォーティー)」を15年間担当、地域の伝説的番組となる。土曜日午後の生ワイド番組(現在は「大塚富夫のタウン」)は49年続いている。ラジオでの食べ歩き取材は8年間、400店に及んだ。朗読「ラジオ文庫」は13年担当(通算20年)。現在の朗読活動の基礎となる。他に「ワイドステーション」を週に1回担当、年末恒例「ラジソン」のメインパーソナリティを第1回から第32回(2009年)までつとめる。2009年9月定年退職するも、業務内容変更なく再雇用、その5年後、契約社員として現在にいたる。「おでつて」「盛劇」「風のスタジオ」などでの舞台朗読にも意欲的に取り組み、公演回数は100回を超え、2004年からは、東京のA-STEP(アステップ)朗読公演にも参加している。飾らぬ軽妙な話術と端正なナレーションを武器にIBCアナ最長不倒記録更新。*現在IBCメディアセンターアナウンス部*これまでに、JNN,JRN系アノンシスト賞7度受賞(98年度TV-CM部門は最優秀賞)(アノンシスト賞…系列局アナウンサーのコンテスト)
*趣味…写真(絵はがき作り)、健康麻雀



音楽

三浦 祥子

チェロ奏者

《略歴》

「岩手県盛岡市在住チェリスト。
5歳より盛岡音楽院にてピアノ、ソルフェージュ。
岩手大学教育学部附属中学校在学中にチェロを村井正一氏に学ぶ。
盛岡白百合学園高等学校、愛知県立芸術大学器楽科卒業。
黒沼俊夫、井上頼豊、天野武子、スザンヌバスラー氏に師事。
現在、藤原真理氏に師事。ソロ活動、宮沢賢治作品の朗読に合わせたチェロ演奏、宮沢賢治記念館事業「賢治の世界セミナー」講師を務める。
奥州ジュニア、盛岡白百合学園オーケストラ講師。ラトゥール・カルテット、いわてフィルハーモニーオーケストラ所属。
三浦音楽教室(チェロ&ピアノ)主宰。